

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 4 年度第 1 回 富士見市生涯学習推進市民懇談会 議事録</p>						
<b>日 時</b>	令和 4 年 1 0 月 2 0 日 (木)		開会	午後 3 時 0 0 分		
			閉会	午後 5 時 0 0 分		
<b>場 所</b>	富士見市立市民総合体育館 1 階 多目的室 3					
<b>出 席 者</b>	参加者	猪俣座長	渡邊	新井	星野	遠藤
		○	○	○	欠	○
		大沼	出井	山崎	吉田	小谷
		欠	○	○	○	○
		貝塚	戸塚			
		○	欠			
	事務局	生涯学習課 土田課長、堀副課長、玉田、加藤				
<b>公 開 ・ 非 公 開</b>	公開 (傍聴者 なし)					
<b>議 題</b>	<p>1 開 会</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>3 議 事 富士見市生涯学習推進アクションプランについて ①令和 3 年度の評価について ②令和 4 年度のアクションプランについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>					

## 議 事 内 容

生涯学習  
課長

### 1 開会

生涯学習課長より開会あいさつ

昨年度から第3次生涯学習推進計画がスタートし、アクションプランに基づき事業に取り組んでいる。本日は、昨年度に各担当課が取り組んだ事業の内容について報告させていただく。アクションプランの具体的な内容について会議で取り上げるのは今回が初めてであるため、ご意見や課題に対するアドバイス、アイディア等があればぜひ積極的にお出しいただきたい。

### 2 座長あいさつ

猪俣座長よりあいさつ

新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動ができない時期が続いたが、今後は状況を見ながら WITH コロナを進めることが大事である。この3年間、世の中が大きく変わってきている。更に人生100年時代といわれる中、「生涯学習」の重要性が高まってきている。第3次生涯学習推進計画も令和3年度が第一年度である。参加者の皆さんには、各担当課の評価・振り返りについて積極的に意見をお出しいただきたい。

### 3 議事

富士見市生涯学習推進アクションプランについて

①令和3年度の評価について

②令和4年度のアクションプランについて

資料を基に事務局より説明

今回は、C評価の事業に注目し意見をいただきたい。

<質疑・意見>

参加者

全体として、目標設定が抽象的だと感じる。各事業の目標が文章で示されているが、数値での目標など定量的に評価できる設定の方が良いのではないかと。同様に実施結果の記載内容もわかりづらく、全体的に曖昧な内容であるという印象を受ける。

参加者

評価項目の中の「満足度」とは何か基準があるのか。自宅の近くにコスモス街道があるが、ここ2～3年は活動していない印象がある。活動できていないのであればコスモス街道事業の評価は「やや不満」ではないかと思うが、担当課の評価は「やや満足」となっている。満足度の評価にも根拠が必要ではないか。

事務局

満足度については、担当課の判断による評価が記載されている。参加者へのアンケート等で確認している事業もあれば、担当者の肌感覚で記載している事業もあると考えている。

参加者

コスモス街道事業の評価と考えた時、コスモスを見に来た人の数で評価するのではないかと印象を受けた。どのような周知活動を行って

	<p>いるのだろうか。コスモス街道については市の広報でしか見たことがないように思う。市民にもどれくらいの認知があるのか疑問である。例えば駅にポスターを貼るなど、多くの人の目に触れるような方法を考える必要があるだろう。</p>
参加者	<p>評価の項目が「満足度」で良いのか疑問である。「到達度 80%」など、数値での評価が必要ではないか。</p>
参加者	<p>アクションプラン全体として、前年度と比較してどうだったのか、という視点が足りないように思う。同じB評価でも、前年度よりも上がってBなのか、下がってBなのか、この資料からは読み取ることができない。事業は実施すること自体ではなく中身が重要であると考え、事業の実施回数や参加人数など、数字の増減のみを根拠に評価をすることはできないだろう。しかしながら、比較の基準として何らかの数値は必要であると感じる。</p>
参加者	<p>市民が行っている活動に、担当課が計画の柱を当てはめているような印象を受ける。</p>
参加者	<p>高齢者ひろば事業について、今後高齢化が進むことを考えると取組みの方向性としてはとても重要な事業であると思う。しかし、満足度が低く参加者が減っている状況ということは、事業内容が高齢者のニーズに合っていないのだと想像する。内容をスケッチに限定している理由もよくわからない。</p>
参加者	<p>現状の高齢者ひろばの内容では、絵を描くことが好きな人しか行かないと思う。歌など、別の内容と組み合わせれば参加者が増えるのではないか。</p>
参加者	<p>市が主体の活動であるならば、勇気を持って止めるという決断も有りだと思ふ。人員や予算は限られているので、満足度が低く参加者も少ない事業よりも、別の部分に力を入れた方が良いかもしれない。</p>
参加者	<p>生涯学習の意図を持って高齢者へアプローチしてほしいと思う。参加した時の楽しさが想像できるような周知、参加のきっかけづくりをしてもらいたい。</p>
参加者	<p>水谷東公民館で実施しているイエローカフェなど、利用者や地域の人交流できる事業が市内で実施されている。しかしながら、施設同士の連携が弱いように感じる。成功事例を市内の施設で横展開できると良いのではないか。</p>
参加者	<p>公民館に Wi-fi が整備されたが、使い方のルールを作成していくとともに、活用方法についても検討する予定である。公民館の事業、例えばお月見一座の講演を配信したり、将来的には高齢者にタブレットを配ることで地域の意見を吸い上げたりできるのではないかと考えている。コロナの影響もあってオンラインの活用が進められていると思うが、単にオンライン化するだけでなく生涯学習に絡めた工夫をしてもらいたい。</p>

参加者	避難行動要支援者支援事業について、支援者となるために研修や講習が必要なのだろうか。必要だとすれば支援者として手を上げることは気軽にはできないのではないか。災害時に他の人を支援するのは意識が高くないと難しい。「助け合い」のレベルを超えているようにも感じる。
参加者	こうした支援には、支援する人とされる人が本人同士で了解してタッグを組んで対応する必要があると思う。
参加者	協力してくれる人が見つからないのであればどうするのか。支援者が居ないのであればそれで良いといった性質の事業ではないだろう。市で講習会を行うなど、若い人を集めるための方策が必要ではないか。
参加者	要支援者のリストにこだわらず、何かあった時に助け合えるような地域性を作ることも重要だと思う。
参加者	災害時に第三者を支援すると考えると、求められていることのレベルが非常に高いように感じる。ボランティアではなかなか難しいのではないか。謝礼を支払うことも検討すべきではないか。
参加者	勝瀬の地域では、民生委員からの依頼を受けて、要支援者の隣3軒が「お助けサポーター」として普段から見守りをしている。複数人で対応することで、一人ひとりの負担感も軽減するようだ。
参加者	地域子ども教室について、教室の運営に関わる方からの話を聞くと、子ども教室・学校・PTA・町会でコロナ対応への考え方に差があると感じる。可能であれば、担当課からコロナ禍での活動方法のモデルケースを示してもらえると運営側も動きやすいのではないか。
参加者	子ども教室運営に当たって関係者のモチベーション維持が課題とのことだが、ぜひモチベーションを上げて活動していただきたい。子どもが安心安全に過ごせる居場所があることはとても重要である。教室の運営に参加することの楽しさや、教室の必要性も発信してもらえたらと思う。
参加者	パソコン教室事業はスマホ教室に内容を変更しているということだが、時代に合わせて事業の中身を変えていくのは良いことだと思う。
参加者	高齢者でもスマホの所持者が増えている。パソコンの方が文字が大きくて見やすい一方、スマホやタブレットの方が手軽で簡単に使える。写真を撮ったり情報を調べたり、使いこなすことができればスマホはとても便利だと感じる。こういった教室で使い方を学ぶことができるのは良いと思う。
参加者	ITの入口の教育は市民からの需要があると思う。例えば、マイナンバーカードをスマホで読み込むことで、自分の情報を一目で確認することができる。今後はスマホの活用場面がますます増えていくだろう。
参加者	アクションプラン全体として、事業目標については客観的な見える化

	<p>が必要だと考える。数値目標、質的な目標など、明確な指標を定める必要がある。</p>
参加者	<p>この会議で出た意見がどのように反映されたのか報告が欲しい。市民から意見を聞いた、というところで終わっているように感じる。</p>
参加者	<p>分かりやすい数字を資料に入れて欲しい。事業の規模感や参加者の増減など、見えてくるものがあると思う。</p>
参加者	<p>第3次計画で定められたKPIやKFSが担当課のところまで下りていないように感じる。</p>
参加者	<p>各事業の評価をしていることや、評価資料を作成していることは有意義なことだと思う。評価資料を見て初めて知る事業がいくつもあった。市民にもこの資料の存在を広く周知し、活用すべきだと感じる。</p>
参加者	<p>アクションプランの資料を市のホームページに掲載する際、意見聴取のフォームを掲載してはどうか。懇談会参加者以外の市民の意見を聞くことで、より良い事業の実施や評価に繋がるのではないか。</p>
参加者	<p>定量的な評価も必要だが、生涯学習に関わる事業として考えた時に数値の変化をどのように捉えて評価するか、という視点を持って評価してほしい。</p>
参加者	<p>事業実施のチェックはどのように行っているのか。前任者の確認などは無いのか。事業を実施すること自体も大切ではあるが、実施内容に関しても確認をした方が良いのではないか。</p>
事務局	<p>事業の実施状況等の確認は担当課でおこなっている。内容のチェックという形で前任者が関わることは少ないと認識している。</p>
座長	<p>第3次計画の文面には数値での目標が示されているが、担当課レベルに下りたアクションプランだとそれが全く見えてこない。定期的に行っているアンケートや意識調査で数字を取ることは可能だと思う。しかしながら、そういったことが必要だという意識の共有が担当課レベルまでできていないのではないか。</p>
事務局	<p><b>4 その他</b></p> <p>今回いただいた意見等は、各担当課へフィードバックを行いたいと考えている。また、皆さんの意見がアクションプランにどのように反映されたのか、何らかの形で報告することを検討する。</p>
	<p><b>5 閉会</b></p> <p>閉会あいさつ</p>